

総会及び部会で示された意見の概要

- 平成26年2月3日(月)
第31回 情報通信審議会
- 平成26年2月26日(水)
第1回 2020-ICT基盤政策特別部会

1. 2020年代に向けた情報通信の展望

(1) ICT基盤の在り方

- ① 電波をいかに有効に使うかという技術的観点と、電波の配分方法という政策的観点を一緒に考えて、**2020年代には通信環境にストレスを感じない仕組みを作っていくべき。**(総会)
- ② 大規模災害の発生について差し迫った想定がされている中、**情報通信インフラの強靱化が非常に大事**であり、何が起きても通信手段が確保されるような視点で考えていくべき。(総会)
- ③ 災害時の利用という点もあるので、**使いやすさと通信の確実性が重要。**(部会)
- ④ 今後、家電など様々な機器がつながる環境となり、そのためにはWi-Fi環境の構築が重要になるとともに、**また、Wi-Fiを使ってスマートフォンのデータの一部を固定通信に流すことも重要になる。**(部会)
- ⑤ 今後は、普及率や価格などの基礎的な指標ではなく、**どのような社会を目指すのかというビジョンが重要。**(部会)
- ⑥ **通信事業者が投資することがより良いICT環境につながる**ため、投資を促すためにどのような方法があるかといった議論が必要。(部会)
- ⑦ 2020年の将来を考えるに当たり、**個人利用だけでなく、法人利用の視点も持つべき。**(部会)

(2) ICT利活用

- ① 日本のICT利活用は進んでいない。社会保障・税番号制度の導入もきっかけにして、**ICTを活用した具体的な未来像をきちんと国民に示し、ICTの利活用を進めていくことが重要**。海外の利活用の成功事例を国民にわかりやすく展開することも必要。(部会)
- ② **ビックデータがインフラの長寿命化や健康データによる医療費削減に貢献できる一方で、その扱いについて課題**。また、災害対策という点で、**レジリエンス(強靱)なシステムを考えていくことが必要**。(部会)
- ③ 日本が莫大な借金を抱えた破綻国家であることや、エネルギー危機を迎えていることを認識した上で、**ICTを使っていかに行政・予算の効率化を図るか、M2MやIoTでいかにエネルギーの効率化を図るが重要**。さらには、**医療や教育への利活用も重要**。(部会)

(3) ICTの国際展開

- ① 2020年には無数の無線デバイスがネットワークにつながる時代になることを前提として、**世界への展開等も視野に入れ、日本の存在感を示せるようなネットワークを実現すべき**。(総会)
- ② 2020年以降、世界の人口の増加とともにBOP(Base of the Economic Pyramid)の占める割合も増加する中、日本が国際貢献をするためには、技術とアプリケーションに加えて**日本で培った高度なオペレーションが重要**であり、**これらをセットにしてグローバル展開ができるような仕掛けについて検討すべき**。(総会)
- ③ 日本は基盤の整備は世界最高レベルだが、**国際競争力という点では足りないところがあり、国際競争力の視点や利活用の推進といった点が重要**。(部会)
- ④ 国内の政策であっても対象となる事業者はグローバルな展開をしているため、**グローバルな視点を念頭にに入れて議論すべき**。(部会)

(4) ICTの研究開発等

- ① 日本がこれまで以上に高い付加価値を持つICT技術を自らつくり出し、世界に向けてそれを広げていく役割を担うためにも、**基礎基盤研究の振興・推進が重要**。(総会)
- ② **知的財産権の確保も大きなテーマ**であり、実態把握や今後どのように強化を図っていくかも含め検討すべき。(総会)

2. 情報通信基盤を利用する産業の競争力強化のための電気通信事業の在り方 －世界一ビジネスがやりやすいICT基盤の提供－

(1) ICT基盤を担う事業者間の競争の在り方

- ① 電気通信事業者の再編・集約が進む中、より公平な競争とはどのような環境かをよく考えることが必要。
(総会)
- ② 大手3社の市場シェアが25%を超えている中、公平な競争の在り方を見直すべき。(総会)
- ③ 2020年代に向けて、NTTの在り方・非対称規制についての議論が必要。(総会)
- ④ 現在の携帯市場はユーザの囲い込み競争ばかりが激しく、サービスの向上という点で競争しているのか
疑問。(部会)
- ⑤ 携帯電話については、MVNOによるデータ通信サービスの提供ができており、MNOの補完的存在になりつつある。(部会)
- ⑥ MVNOという存在は先日まで知らなかったし、多くの消費者には届いていない。(部会)

(2) ICT基盤の料金・サービスの在り方

- ① 高級なものから低廉なものまで、サービスの**価格や機能に対する選択肢を多くすることが必要**。(総会)
- ② 携帯電話の端末と通信料を一緒にしていた時代が、日本の関連ものづくり産業や将来のICTを担う人材の成長力を弱めてしまったのではないか。**付加価値の高いものは価格も高い、といったICT産業政策を考えていくことが重要**。(総会)
- ③ 一般ユーザの立場では、**通信料金を安くして欲しいが、安いからといって信頼性が薄れるのは困る**。(部会)
- ④ 通信事業者を乗り換えた人だけを優遇する施策により、同じキャリアの**長期ユーザが実質的に損をしている状態にあり、非常におかしい**。また、キャッシュバック合戦が流通を複雑化しており、利用者の立場から疑問。(部会)
- ⑤ 携帯電話事業者はどこもプランが同じで、選ぶ基準は結局キャッシュバックの額になってしまう。多少料金が高くても、**もっと納得感のある料金体系にすべき**。(部会)

(3) ICT基盤を担う事業者の在り方

- ① 様々なベンチャー企業が登場する中、**新しい事業者が柔軟に参入できるような仕組みを整備すべき**。(総会)

3. 情報通信基盤の利用機会の確保や安心・安全の確保のための電気通信事業の在り方 — 世界に誇れるICTを利用しやすい国に —

(1) ICTの利用機会の確保

- ① 東京でも地方でも、どこにいてもビジネスが展開できることを意識した環境整備・体制作りをすべき。(総会)
- ② 消費者が安全にICTを利用できるということが第一で、さらに、**全国くまなく、高齢者にも使えるようなICT環境を実現すべき。**(部会)
- ③ インターネットを使えることが前提の公的サービスも増えてきているが、**高齢者等が取り残されないように配慮する必要**がある。(部会)
- ④ 利用者が高齢化する一方でICT機器が高度化する中、老老介護や医療・介護福祉の場面で**ICT機器を安心して使えるような人材育成、資格・制度の整備が必要。**(総会)
- ⑤ 少子高齢化が進展する中、高齢者の方々が常に利用可能な**シンプルなICT機器と仕組みを作っていく**という視点が大事。(総会)

(2) ICTの安心・安全の確保

- ① 2020年代には、あらゆるものがインターネットにつながるようになるため、個人のみならず**ビジネスにおいても、サイバー空間での安心・安全が保障できる環境を整備すべき。**(総会)
- ② 様々な人が様々な場所で常時つながっている状況では、**安全性・セキュリティの担保が重要。**(総会)
- ③ 「安心」は人それぞれの主観的なもので、計算可能な概念である「安全」とは違うもの。これらを一言にまとめて安心・安全というのは違和感がある。(部会)

(3) ICTリテラシーの向上

- ① スマートフォンなどのICT機器が高度化する中、リテラシーの向上が重要。(総会)
- ② ICTが暮らしの中に広がる中、積極的に**国民誰もがICTに向き合い、ICTの高度化に貢献していけるような環境作りも重要**。(総会)
- ③ **スマートフォンの料金がどういう構成になっているのか全然わからない。消費者への説明をきちんとすべき**。また、相談しようと思っても電話がつながらないなど**相談しづらい現状は問題**。(部会)
- ④ 安心・安全の観点からは、**災害時にICTをどう使えるか、さらには消費者のリテラシーをどう高めるか**についても基盤整備と平行して推進することが必要。(部会)
- ⑤ ICT関係は苦情相談の多い分野であり、事業者重視の議論ではなく、**利用者視点で議論すべき**。(部会)